

直近の会議等で「基本構想（中間まとめ）」に対して出された主な意見について

項目	地域連絡協議会（H29.5.23）	監理委員会（H29.5.26）
1 世界最高水準の安全性の実現	<ul style="list-style-type: none"> ① 「世界最高水準の安全性」については、原発の安全性についても同様な議論があるが具体的に示すのは難しい。海外の事例を調査し、最善事例を本施設に反映させることが必要。世界最高水準の安全文化を実現するという視点が重要。 ② 「世界最高水準の安全性」について、外部の専門家の意見を聴いて判断するというのは、逃げではないか。 ③ 危機管理部門の機能等について詳細に説明してほしい。 ④ リスクを小さくする方法を具体的に提示してほしい。 ⑤ 施設への病原体の搬入時における安全対策も示すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 世界最高水準の安全性について、海外のガイドラインとの比較等を通じて指標化し、長崎大学が世界最高水準の安全性を達成していることを示すべき。 ② 世界最高水準という言葉だけでなく、ハザードに見合った安全性の確保をしっかりとやってほしい。 ③ バイオセーフティオフィサーの役割や権限について、具体的に検討し、示してほしい。 ④ バイオセーフティとバイオセキュリティが、時には相反する取り扱いをしなければならないこともあるので、それぞれ担当する者をおいたほうがよい。 ⑤ 会社におけるガバナンスとは異なるため、大学におけるガバナンスをしっかりと検討する必要がある。 ⑥ 陰圧管理による封じ込めが成功しているか、トレーサガスをを用いて「見える化」すべきではないか。 ⑦ バイオセーフティ、バイオセキュリティ双方の観点から起こりうるリスクを評価して、具体的な対応策を検討する必要がある。
2 地域との信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域社会との共生が一番重要であり、基本構想の理念にも一番先に掲げるべきだ。 ② 施設がもたらす良い効果として、子供たちへの教育といった視点も重要。 ③ 何か起こった時の緊急時対応について検討すべき。 ④ どんなにリスクを下げても、リスクをゼロにすることはあり得ないはずだ。わずかでもリスクを住民に押し付けるようなことを、絶対に受け入れることはできない。 ⑤ 基本構想を完成させる過程で、住民からの声をもっと丁寧に聞いて、それを反映してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地元の理解の為に、地域からの質問等に対して、長崎大学の対応状況をしっかりと示す必要がある。 ② 地域連絡協議会などの場において、聞かれたことを答えるとともに、施設の運営管理にどのように反映したというフォローもできる限り示していく必要がある。 ③ 地域連絡協議会だけからでなく、一般からの改善に関する意見も受けて、どのくらい改善されたかを示すなどして、地域とのコミュニケーションを図っていくべきではないか。
3 その他	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本構想を読んで、大学が急いで施設を造ろうとしている印象を強く受ける。真摯に、謙虚に対応してほしい。 ② 基本構想はよくできている。意欲が感じられる。大学が整備を目指す施設のあり方がようやく明らかになってきた。 ③ 今後、この基本構想（中間まとめ）を、どういうスケジュールで完成させるのか。 ④ 基本構想が完成されて以降、今後の設計、工事に、基本構想の趣旨が反映されないことがあるので留意が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設の基準について、法令と現場との間の考え方を国が示すべきではないか。 ② 施設建設後も、しっかりと安全性を確保して運営されていくための恒久的な財源の確保についての見通しを示してほしい。

※ 以上は、事務局が作成した概要であり、正確には議事録に基づく確認が必要。